

【チベット編 2】

5. 問答修行という修行エンターテイメント

セラ寺というラサにあるお寺では問答修行が行われています。僕たちはお昼過ぎにセラ寺に行ったのですが、**300人以上の若いお坊さん**がお寺の庭に集まってきて、突然一斉にその修行は始まりました。2人がペアになって行うもので、1人は立って問題を出し、もう1人は座ってその問題に答えるのです。**問題の内容は今までに勉強したお経の内容について**のようで、その復習のためそれを行っているそうです。ただそんな真面目な勉強もイケてるチベットのお坊さん達は**コミカルに楽しくやっています**。出題者は思いっきり後ろに振りかぶって、問題を言いながら、座っている回答者の方に体ごと移動しつつ、目の前ぐらいでパンッと手を叩いて「**とは何ぞや!**」という感じに問題を出します。



座っている人の中にはさっと答えられる人、しどろもどろで答える人、考え込んでしまう人など様々です。答えられた人に対しては、出題者がまた次の問題をすぐに出すという感じで延々とそのやり取りが続きます。それに対して間違えた人や答えられない人には、出題者が「**はい、ダメッ!**」という感じで手を叩き出題者が「**こうこうこういうことやんけ!**」という感じで答えを言い、また次の問題に続くのです。



その修行は一時間以上行われていました。例えばどんな質問なのかガイドのディジに聞くと、「**How did human-being come to this world?**」などだそうです。**そりゃすぐに答えられねえだろう**と思ってしまいますが、それもお経に書いてあるとのこと。僕らが高校や大学で英数国社理などの一般常識や社会に出た時の実務を学んでいる年頃に、彼らはこのよ

うなブッダが悟った境地、そして人はいかに生きるかについてひたすら学んでいるのです。またそれも素晴らしいことのように感じました。

6 . チベット仏教の最高位は、かの有名なダライラマ！

チベット仏教の最高位は、言わずと知れたあの有名なダライラマ 14 世です。ノーベル平和賞も受賞しているので、知っている人も多いでしょう。彼は観音菩薩の化身である活仏、つまり生き神様なのです。面白いことにダライラマは血統で引き継がれていくのではなく、生まれ変わりによって引き継がれていくのです。仏教の輪廻転生からきているのでしょうか。現在の 14 世は 13 世が亡くなられたちょうどその時に生を受けた子供の中から高僧によって見つけられ、選ばれた方なのです。ダライラマは 14 代という長きに渡り、チベットの民から神として崇められ、そしてその民を守り続けてきたとされているのです。そして今から遡ること 2,500 年前に実在したブッダの教えが基になって、7 世紀にチベット仏教は成立しているのです。そういう長い伝統の中にダライラマ 14 世はスピリチュアルリーダーとして、また政治指導者としても存在するのです。

日本、中国では、ダライラマにあたるようなスピリチュアルリーダーが果たしているのだろうか、と僕は考えました。もちろん、そこまでの人はいないと思いますが、日本だと、天皇が“国の統合の象徴”であると憲法で定められていますし、お正月などには天皇陛下を一目見たくて皇居に集まる人も多くいますから、一部の人にとっては現在においても統合の象徴の役割を果たしているのかもしれませんが。しかし、ダライラマのような宗教指導者ではありませんから、その存在とは明らかに違うような気がします。中国はどうでしょうか。さらに思い浮かびません。北京にある天安門には「中華人民共和国万歳、世界人民大団結万歳」の文字とともに毛沢東の大きな肖像画が門壁中央に飾られていました。そしてチベットの寺の壁にも、文化大革命による寺院の破壊の時に書かれたと思われる毛沢東の肖像画と「中華人民共和国万歳」の文字が書かれているのが残っていました。今の政治体制を築き、「宗教は毒だ」と言った毛沢東が、中国人民の精神的リーダーの役割までも果たそうとしたのかもしれませんが。また精神的リーダーなど必要ないと考えたのかもしれませんが。

7 . でもダライラマの写真がない！

チベットにあるどの寺に行っても、街中どこを探してもダライラマ法王の写真を見つけることができません。他のえらいお坊さんの写真や仏像はたくさんあるのにダライラマ法王の写真だけはないのです。それは中国政府が厳しく禁じているからなのです。信じられない話ですがそうなのです。そのことから、いかにダライラマ法王がチベットの人々にとって大きい存在かということ、そしてその力をいかに中国政府が恐れているのかも分かると思います。あれだけ信心深い人たちが、神様の写真を持たずにいるというのですから、もし所持していることが見つかった時には、いかに厳しい処分があるのかということも容易に想像できます。また、お寺の中でチベット人ガイドにダライラマについて質問しても「political word」と言って、答えてくれません。ダライラマに関すること、チベットの独立運動に関することを外国人に説明することを禁じられているのです。寺の中にはマイクとカメラがあって中国政府がチェックしているという徹底ぶりです。

8 . あまり知られていないチベット人の苦難

どうしてダライラマの写真がないのか、皆さんに事実を知って欲しいので「ロンリープラネット」インド版に書いてある内容を和訳してみました。

「1949年5月、中国とチベット両国がかつてモンゴル帝国の一部であったという根拠に基づいて、中国の新しく設立された共産党政権はチベットまで支配を拡げる決定をした。中国人民軍は同年チベットの首都ラサに進軍し、冷酷な支配体制を始めた。それによって約120万のチベット人が死に、数え切れないほど多くの人が囚人として強制労働キャンプに収容された。

1949年以来、文化大革命の名のもとにチベットの宗教施設の約90%が破壊されてきた。チベットの民と自身の生命を脅かされて、チベットの宗教指導者であるダライラマ14世は1959年に亡命という困難な決断をした。

少数の側近とともに、ダライラマは何週間もかけてヒマラヤを越えたのち、インドに到着した。それ以来、約292,000のチベット人が彼の後を追って、ダラムサラ、ダーズリンやその他の山岳地帯のコミュニティーに住み着いた。チベット亡命政府はダラムサラ、マクロードガンジ下のギャンチェン・キチョンで政治亡命が認められ、それ以降約40年に渡ってチベットの解放運動の本部となった。その後1989年に、ダライラマ14世は、チベット解放への平和的解決を求める努力が認められノーベル平和賞を受賞した。

中国はチベット問題に関する対話への全ての試みを拒否し続けてきた。欧米諸国が中国への規制を緩和してきている今、チベット解放運動の未来を恐れる声も多い。ツグラガン地区のナムギャル寺にあるチベット博物館には中国による占領の悲劇を伝える広範囲にわたる展示がある。」

皆さんはこのことについてどれだけ知っていましたか？僕は全くといっていいほど知りませんでした。この美しい神秘の国チベットにこのような悲劇があることはあまり日本では報道されていないように感じますが、皆さんはどう感じますか？何かの圧力があるのでしょうか？

僕たちはダラムサラに行ってこの優しく美しいチベット人たちが神として崇拝するダライラマがどういう人なのか、また、中国とチベットの間にはどのような真実があるのかを知るために、中国を出た後、インドではダラムサラに立ち寄ることを決めたのでした。

(文野 正広)